天祖主神

信神是我道
忠孝

天祖主神
（信神忠孝是我道）

高田畊安

序

神武天皇が皇國日本を御創立以來既に殆ど二千六百年、金甌無缺の歴史を有し、三大强國の列に達したる皇國は今や防共の爲に支那を討伐し、更に進んで他强國と戰はんとして居ります。戰爭に必要なる武力金力心力中に就いて心力を强むる所あらんが爲に此の短

文を書くことと致しました。

定義

天とは宇宙をいふ。祖とは吾人の本源をいふ。主とは宇宙の領主をいふ。神とは至大の權威をいふ。古來宇宙卽ち天を神の御座所と想ひしに由り神を指して天と稱へました。古事記に天神と記せるは創化の三神卽ち天の御中主神、太神産靈神及神産靈神を指すのでありますれど、宇宙の領主は唯一でありますから、天の御中主神を指すと解すべきであります。他の二神は恰も頭首に對する兩手の如き關係と考ふべきであります。天の御中主神を簡單に天の主神と稱ふるを推奬します。天の主神は基督教の神と同一で居らせられます。基督教では主神を天父又は父神と稱へます。此の意義を同時に

言ひ顯はす爲には天の主神を天祖主神と稱へ奉るを最善と考へます。天父と天祖は同意義であります。

日本精神は隨神道（かんながらみち）でありまして神に隨ふ即ち神意に隨ふを事とするのでありまするが、其の神は八百萬の神々の中の最上の神なる天祖主神である事を心得て居らねばなりません。天祖主神に隨順奉仕する事は既に伊奘那岐の尊も天照大神も御實行に成つたのであります。又神武天皇も明治天皇も深く御信仰なされました。

信ずる即ち信仰する事は人が神に對する最善の態度でありまして信仰とは神を崇め敬ひ神の恩愛と權力を認めて之に服從し、奉事し且つ運命を委託するのであります。されば隨神は信仰の結果であり

ます。抑も孝は父母に善く奉事するをいひ、忠は天皇に善く奉事するをいひ、信は神に善く奉事するをいひます。而して忠は孝の延長であり、信は忠孝の延長でありまして吾人の行くべき唯一條の道であります。如何なる事情あるも決して脱線してはならないのであります。

孝友の道

孝とは父母に善く事ふるをいひ、友とは兄弟に善く接するをいひます。孝行は縦の道德でありまして之を延長して隨神忠孝と成ります。又友交は横の道德でありまして之を延長して兄弟、夫婦、朋友の親善と成ります。之を樹木に比すれば、孝道は根幹にして友愛は枝葉であります。されば孝道を離れたる友愛は恰も根幹を離れたる

枝葉の如く枯死を免かれないのであります。故に吾人は随神忠孝に重點を置き而して之を離れざる程度に於て友交を行ふべきであります。

マルクスの共産主義

皇國は縱道を重んじ、隨神忠孝の道を進み、其の範圍內に於て夫婦、兄弟、朋友の友交を爲すのでありますが、マルクスの共產主義は友交を專一として隨神忠孝を度外に置くのであります。否な寧ろ之を排斥するのであります。故に人類の爲に其の有害なる事は極めて明かであります。一家は親心と孝心とに由りて幸福であり且つ隆昌と成り、一國は君臣上下の大義秩序と父子的親愛に由りて幸福であり且つ隆昌と成り又世界は天祖主神を畏敬する事に由りて、和

氣藹々たる一家庭を結成する事となるのであります。然るに共産主義者は孝道を棄てゝ專ら友道に由らんとするのでありまするから家庭でも國家でも世界でも平和が破壞せられ憎惡と鬪爭が止まないのであります。

神性と人性と獸性

吾人は神の造りたまひし萬物中の靈長なる者であります。聖書に『神其の像の如くに人を創造したまへり、卽ち神の像の如くに之を造り之を男と女とに造りたまへり』（創世記一の廿七）又『ヤーヱー神土地の塵を以て人を造り生命の息氣を鼻へ吹き入れたまへり、斯くて人は活ける者と成りぬ』（同二ノ七）とありまする如く吾人は物質と靈魂より成つて居るのであります。而して人性が向上して神の靈

氣即ち聖靈に滿つれば神性と成り、之に反して墮落すれば聖靈を失ひ、獸性と成ります。獸性は肉慾を是れ事とするのでありまして、或は食慾（卽ち口腹の慾）或は（色慾卽ち性慾）或は肉體生存慾（卽ち生活慾）に驅使せらるゝのであります。又神性は天祖主神の御意を心として、專ら聖意の遂行を是れ事とするのであります。克己自制とは獸性を退けて、神性に歸するをいふのであり又いましめ（誡）は獸性を束縛して、神性に叶ふ道を步ましむるものであります。

誡律を破るマルクス主義

マルクスは人々の解放と平等とを叫びました。解放とは束縛を脫することであり、いましめを解くことであり、誡律を撤去することであり、秩序を認めぬことであり、克己自制を解消するのであり、

淫行を恣にするのであります。又肉慾を以て思慮なき人間を誘惑して天祖主神に背かしむる事は恰もエデンにてエヴァを誘惑せし蛇の如きであります（創世記三ノ一—廿四。曰く『蛇婦に云ひけるは神眞に汝等園の諸の樹の果は食ふべからずと云ひたまひしや、婦蛇に云ひけるは我等園の樹の果を食ふことを得、然れど園の中央に在る樹の果實をば汝ら之を食ふべからず又之に捫るべからず、恐くは汝等死なんと神云ひたまへり。蛇婦に云ひけるは汝等必ず死ぬる事あらじ、神は汝等が之を食ふ日に汝等の目開け、汝等が神の如くなりて善惡を知るに至るを知りたまふなりと。婦樹を見れば食ふに善く、目に美しく且つ智慧からんが爲に慕はしき樹なるに由りて遂に其の果實を取りて食ひ又之を己と偕なる夫に與へければ彼も亦食

へり』)。

神性と永生を妨ぐる誘惑

マルクス主義は私有財産と私人の特權を排斥し、同時に一切の財貨及土地を共有として之を以て各人を扶持し且つ各人平等と爲さんとするのであります。從つて上下の別も男女の別も無く孝行も忠義も信仰も無いのであります。一家には階老同穴を盟へる貞操純潔の夫婦を必要と致しまするが、彼ら男女の離合は甚だ頻繁でありまして(『彼らは夕に結婚して朝に離婚す』と嘲る者さへあります)彼らは甚しく家庭を輕視するのであります。彼らは黨員を細胞と呼び其の本部をモスコー市に置いて各國の細胞群へ司令するのであります。男女間の亂行と他人の財產奪取を餌食として、思慮なき人間を

黨員に引き入れるのであります。良民が彼らの仲間に引き入れられて無用有害と成る事は恰も一酸化炭素中毒の如くであります、即ち酸素を身體組織に運搬の役目を爲せる赤血球色素ヘモグロビンが、若し火鉢の炭火等の發散する一酸化炭素に接觸する時は之と結合してもはや酸素結合運搬の用を爲さなくなるのであります。蓋し血色素に對する酸化炭素の親和力は酸素に比して二百五十倍强いからであります。共產黨は左樣に大なる誘惑力を持つて居て到る所に病的現象を惹起するのであります。彼らには貞操なく、貞女烈婦なく純潔無垢なる處女なく、孝行なく、大義名分なく、主神を畏敬する事が無いのであります(聖書に曰く『主を畏るるは知識の本なり、愚なる者は知慧と訓誨とを輕んず』(箴言一ノ七)『神を畏るるは智慧の

初なり、神聖者に從ふは總明なり』(同九ノ十)。

マイエルの所説

『共產主義は皆蒙昧なる空想を有すとの批難を受くるは當然である。彼らには人類の性質と健全なる國家經濟並に平和なる文化的社會の肝要なる根本に對して明了なる認識が缺けて居る。彼らには人類行爲の眞の發動力と國家經濟の機關的構成に關する理解が缺けて居る。斯の機關的構成は國民の文化的生活と人性の文化的進步の要約たりし者であつて又將來も其の要約と成るべきである。此の諸關係を全然誤解せるに由りて大なる錯誤に陷り、平等てふ根本的妄想に陷るのである。彼らは個人的滿足の爲に並に個人及全體の精神的進步の爲に個人運動の自由性と自己の地位に對する責任意識とが大

なる意義を有する事を識らないのである。彼らは私有財產及相續權の制度が各人修養發達の昂進の上へ、作業の勤勉及節儉心の上へ竝に經濟的生活の不斷の進步の上へ有益なる干涉を齎すを知らない。衣食住の最下級なる生活ならば各人の物質的平等を實行し得られる。共產主義の實行は凡有る人間を無產者(プロレタリア)の階級に引き下げ、國民に對して文化的生活及文化的進步を制止するのである』(マイエル大百科辭典)。

勤檢の動機

富貴長壽は人の憧るゝ所であります。人は之を得んが爲に思慮し善行するを常とします。善行とは主神を畏れ、忠孝を盡し人を愛み、職務を勤勉し、物資を浪費せず、正直を守り、養生法に背かぬ

等であります。正直にして勤勉且つ節儉すれば其の努力エネルギーの結晶として資産の生ずるを常とします。是れ恩賞として天より賦與せられたる所の者でありまして、決して他人が其の所有權を犯してはならないのであります。然るに共產黨は之を奪取して分配せんと欲するから惡いのであります。曾て左の如き說を爲した人もあります。

『其故當時歐洲諸國に於て社會黨の運動が漸く有勢に成らんとするや之を嫌忌することも亦漸く激くなり、殊に其の分配論を以て懶惰者の乞食根性であるとの嘲罵も歐洲人の間には決して珍らしい事ではなかつた』(石川三四郎社會主義篇、三宅雄二郎新日本史、昭和二年再版)。

併しレーニンは『人もし働くことを欲せずば食ふべからず』(テサロニケ後書三ノ十)とのパウロの言に基づき『働かぬ者は食ふな』を主張したと聞き及びました。然しながら同主義者の勤勉は決して自ら樂んで行ふに非ずして、威嚇されて働くのであらうと察せられます。彼らの間には威嚇や銃殺が頻りに行はれた事は周知の事實です。青年者が最初は甘言を以て黨內に引き入れられますが、入黨後には苦き經驗を爲す樣であります。

共產黨には富貴の以て人格向上を奬勵する者が無いのみならず、彼らは人世より全然富貴を解消するのであります。而して之に代つて出現するのは軋轢爭鬪であります又風俗の墮落惡化であります。

親心と孝心

世の中に親心と孝心より尊い者はありません。吾人は全く主神と天皇と父母の親心の御蔭で育てられ、生存して居るのであります。親が子を愛するは實に本能的でありまして、他の諸動物(獸、鳥、魚、蟲)にも子を愛すること自身を愛するが如く、否自己以上に之を愛して、其の子の爲には啻に勞苦を厭はざるのみならず、自己の危險を犯して之を防護することあるは周知の事實であります。人類には本能と同時に理智の作用がありまして、更に有力なる援助を其の子に與へるのであります。親が其の子に期待する所は、自己の意志を繼ぎ、自己の業を完成し、自己以上に偉大なる作用を爲さんこと或は老後に援助を得ることでありまして、其の際親は恰も農夫が作物に對し、牧夫が家畜に對する打算的氣分を伴ふのであります。世

間の子らの中に其の親に對して孝行なる者の多ければ多い程親が其の子に對する樂い期待が多大でありまして、心を盡して自己の經驗と智識を之に傾注し或は資產を盡して其の發達を完成すべきであります。併し若し不孝なる者、父母に迷惑を懸ける者等の多い時は父母の愛育の熱心は冷却せられ、產兒や育兒を忌避する者も生ずべきであります。是れ人性及國家の爲に向上隆昌を阻碍することゝなります。故に父母に孝行するは啻に其の家庭に於ける善業であるのみならず、廣く人性の爲に功勳を立つることゝなるのであります。此の點から觀ましても共產黨は孝道を解消しまするから人性の向上を阻碍すべきであります。

親が如何に深く其の子を愛する乎に就いては左の和歌が之を言ひ

顯はして居ます。

『世の中に思ひはあれど子を戀ふる思ひにまさる思ひなき哉』

紀貫之

『子を思ふ親の重荷の四手かしばしも休む息杖もなし』

『はへば立て立てば歩めの親心われに寄り來る年は忘れて』

二宮尊德

親心は殆ど各動物に本能的に備りありますれど孝心は只靈長たる人類に限りて備はれる德性であります。故に孝は人類の一つの特徴とも認むべきであります。孝が如何に貴要の德行なる乎に就いては次に列記します。

貴要なる孝行

（一）孔子曰く

『孝は德の本なり、敎の由りて生ずる所なり』（孝經）。

『父在せば其の志を觀、父沒すれば其の行を觀、三年父の道を改むる無きを孝と謂ふべし』（論語一ノ十一）。

『今の孝は是れ能く養ふを謂ふ、犬馬に至るまで皆能く養ふことあり、敬せずんば何を以て別たんや』（同二ノ七）。

『吾が黨の直きは是に異なり、父は子の爲に隱し、子は父の爲に隱す、直きこと其の中に在り』（同十三ノ十九）。

『身體髮膚之を父母に受く、敢て毀傷せざるは孝の始なり。身を立て道を行ひ、名を後世に揚げ以て父母を顯はすは孝の終なり』

『夫れ孝は親に事ふるに始まり、君に事ふるに中し、身を立つるに

終る』(孝經)。

(二)醫蘇基德パリサイ人らを責めて曰く『汝らは神の誡律を棄て汝らの傳説を以て之に代へたり、例へばモーセ曰く「汝の父母を敬へ又父又は母を罵る者は死刑に處せらるべし」と然るに汝らは云々」マルコ傳七ノ九―十二)。

(三)明治天皇の御製に曰く

『むらきもの心つくして報いなん
あふしたてたる親のめぐみに』

『たらちねの親の心を慰めよ
國に務むるいとまある身は』。

(四)『汝は汝の父母を敬ふべし、是れ主なる汝の神が汝に與ふる土

地に於て汝が長く生きん爲なり』(出エジプト記二十ノ十二)は十誡中の第五條にして、道德律の第一であります(蓋し第一乃至第四條は神に關する宗敎律です)。

(五)佛陀曰く「世間、出世間の恩に四種あり、一には父母の恩、二には衆生の恩、三には國王の恩、四には三寶の恩なり』(心地觀經)。

(六)孟子曰く

『大孝は終身父母を慕ふ、孝子の極は親を尊ぶより大なるはなし』。

(七)明治天皇御製に曰く

『たらちねの親の御前に在りと見し
夢の惜くもさめにけるかな』。

(八)明治天皇の勅語に曰く

『我が臣民克く忠に克く孝に億兆心を一つにして世々厥の美を濟せるは此れ我が國體の精華にして、教育の淵源も亦實に此に存す』

『爾臣民父母に孝に』あれ。

(九)後漢書に曰く『孝は百行の本、衆善の初なり』

(十)孝の字解に曰く

孝(カウ、ヨクおやニツカフ)は老と子との合字にして老は考(ちち)なり、親の心を承け繼いで愼み行ふなり。又老は毛と人と倒さに書いたる人(卽ち變化の化の字の本字)の象形の合字であり又子は頭の大きな子の象形である(高田忠周、大系漢字明解)。

信仰と忠孝の生活法一斑

(一)天祖主神に奉仕して瞬時も背くことなかるべき事。

(理由)『忠臣は二君に事へず、貞女は兩夫に見えず』の語ある如く、吾人も常に天祖主神に奉仕するを要します。片時も心を他の諸神に向けて主神を忘るゝことがあつてはなりません。他の神々を禮拜する場合にも其の神々を透して主神を禮拜すべきであります。又祈禱は專ら主神に奉ぐべきでありまして、其の以外に爲してはなりません。吾人は一生を通じて主神に密接して生活すべきであります。

(一神敎は最も進步したる宗敎でありまして、多神敎は幼稚時代に屬します。汎神敎(佛敎の如き)や無神敎(唯物主義者、マルクスの如き)は現實活在し恩養しつゝありたまふ主神の御前に不敬罪を犯して居るのであります)。

(二)淸氣を呼吸するを怠るべからざる事。

（理由）呼吸は飲食よりも大切であります。其の呼吸は酸素を吸入すると共に炭酸と人毒（毒氣）を呼出する爲であります。呼氣は目に見えぬ大小便の如き不潔有害なる者であります。故に呼氣は直ちに之を遠ざけ、其の混じあらざる清氣を吸入せねばなりません。之が爲には空氣が常に流通するを要します。故に戸外に居る乎又は窓戸を多少開放せねばなりません。夜中にも寒中にも居室の二方面以上に空氣の出入口を開き以て戸外の新鮮なる空氣が入り、室内の不潔空氣が流出する樣にせねばなりません。居室に居る人が多ければ、其れだけ空氣を多く汚しますから、換氣を増加せねばなりません。又喫煙する者があれば空氣は一層多く汚されます。又火鉢は恐るべき一酸化炭素を多量に發散しますから成るだけ之を用ゐず、若し用

ゐねばならぬ時は炭火を成るたけ少なくし且つ窓を多く開いて換氣を保進せねばなりません。又瓦斯管より燃えぬ瓦斯が漏るゝことあれば矢張り一酸化炭素の中毒に陷りますから注意せねばなりません。又塵埃の飛散する場所では綿花を含めるマスクを製しまして之を以て鼻と口を覆ふて居れば害を免がれます。若しマスクのない時は綿花の小片を呼吸に障らぬ程度に兩鼻孔に插入して居ても防げます。

(三) 禁酒禁煙を勵行すべき事。

(理由)『惡小なるを以て爲す勿れ善小なるを以て爲ざる勿れ』てふ語がありますが隨神忠孝の人は必ず之を守らるゝ事と信じます。天佑神助は吾人に必要てありまするが、眞心を以て神に奉仕すること

敵に勝たんと欲すれば先づ己に由りて之を賜はるべきであります。己に克たねばなりません。アルコールもニコチンも麻醉薬でありま す。慢性中毒に陷りたる者には興奮藥と成つて之を用ゐざれば作用し得ない者もあります。其は氣の毒の至りであります。殊にアルコールが健康を害し、心身の機能を害し、生命を縮め、家庭を害し、子孫を害し、社會を害し、國家を害することは極めて顯著なる事實であります。

附錄

教育勅語と基督教の一致點及神武天皇と耶蘇基督の合一點の宣揚（昭和六年十二月二十五日）

吾人は自分で自身を造つた事が無い、然れば他人より造られたのである。吾人を造りたまひし其の他人とは誰なる乎。其は造化の神である。天の美中主即ち天の父上である。

抑も吾人が父母に由りて生まれた事は周知の事實である。啻に生れたのみならず、彼らより育てられた御蔭で今日斯く生きて居るのである。若し父母が吾人を愛育したまはなかつたならば、吾人は疾に既に死滅して居たであらう。吾人を育て上げんが爲に盡されたる

父母の勞苦は實に言語に絶する者があるのを常とする。故に子たる者は其の親に對して感恩尊敬奉仕するを當然の義務本分とする。

× × × ×

併しながら父母は吾人を生み且つ育てたまふたのであつて、造化したまふのではない。父母に由りて吾人を生み且つ育てたまふた御方は目に見えぬ天の父上である。天の父上こそ吾人の極めて眞實なる原因であり、親で在すなれ。然れば吾人は天の父上に最も深く感謝し、最も恭く尊敬し、最も忠實に奉仕せねばならぬ、天の父上は天地萬物と共に吾人を造化し、又古來數多の聖人賢人を通して永生的眞理を吾人に示された。人倫道德の原理を敎へられた。四十周年前に明治天皇が吾人臣民に賜はりたる勅語も亦其の一であつて、

是は啻に日本人が守るを要するのみならず、萬國の人々も遵はねばならぬ性質の者である。

今敎育勅語を萬國民的に解釋すれば『皇祖皇宗國を肇むる事宏遠に』とある其の皇祖皇宗は誰である乎と云ふに、從來普通の解釋では皇祖とは天照大神にして皇宗は神武天皇であるとして居つた。併し其は淺い考であつて、若し深く考へるならば天の美中主の神が皇祖であり、而して太神生靈と神生靈の二神が皇宗で居らせられねばならぬ。古昔周の人は文王を祖とし武王を宗と稱へたなれども、今日世界人は天地萬有を造化せし天の美中主卽ち天の父上を皇祖とし其の御意を遂行せしロゴスを皇宗と稱ふべきである。ロゴスは陰陽の二勢力であつて聖子基督と聖靈であり、又の名は太神生靈と神生

靈である。

× × × ×

ヨハネは福音書の冒頭に『太初にロゴスありき、ロゴスは神と共に在りき、ロゴスは神なりき。萬の物之に依りて造らる』と書いた。其のロゴスは陽性なる神の子と陰性なる神の靈であらねばならぬ。又太神生靈と神生靈とであり、皇宗であらねばならぬ。而して其の以後に天の父上の御意を奉體して國家の經營に與かりし御方は何れも皇宗の延長に他ならぬのである。就中治者として作用せられし伊奘那岐の尊や、天照太神や、神武天皇や、明治天皇等は陽性の皇宗であり、又被治者として作用せられし八百萬神等は陰性の皇宗である皇祖が天の美中主の神に在ます事に就いては建部文學博士も同説で

ある。即ち彼は我が帝國發達の第一期を天之御中主の神の天地開闢と說き、次の如く論じた。『單に神武天皇以來を意味すると云ふやうに見ますならば『我が皇祖皇宗』と仰せられたる句を受けて『國を肇むる事宏遠に』と云ふ句を以て之を繼がせられてありますことが意義不通と成るのであります』。

× × × ×

皇祖を正確に認識する事は日本人刻下の急務である。天の父上即ち天の美中主即ち天地を造化したまひし神を神として崇拜するを要する。此の神は全世界の主であつて、萬國殊に文明人より崇拜せられたまふのである。此の神は萬民に向つて『汝は我の他に神ありとすべからず。又受造物を神として拜すべからず』とモーゼの十誡に宣

言して居られる。抑も人に最も貴きは其の心であり、又其の心に最も貴きは其の主たる神である。然れば心の主なる神は無上無比、眞實、靈活、常在なるを要するは勿論である。併し『受造物を神として拜すべからず』との意義を誤解してはならぬ、蓋し其の意義は天の父上として之を崇拜し、之に祈願し、之に奉仕すべからずと云ふに在るのであつて、吾人は天の父上に全能至愛の神として禮拜し、祈願し、奉仕するのであるが、其の他に或は君主として或は父母として或は祖先として或は恩人として或は偉人として、或は禮拜し或は奉仕する事は毫も妨ないのである。殊に君主や父母や上司等は直接又は間接に天の父上より權威を受け其の意を行ふ人なるが故に、神を崇拜する心に基いて其の人々を敬ひ又之に仕ふべきである。又其

の人々の記念物例へば肖像に對して敬禮する事恰も生ける人に對するが如くするも妨ないのである。但し祈願は只天の父上に對してのみ爲すべきであつて決して其の他に向つて之を爲してはならぬ。

× × × ×

『汝臣民克く忠に克く孝に億兆心を一にして世々其の美を成せるは是れ我が國體の精華にして』とあるのも亦萬國民に通用するのであつて、忠孝の性行ある人は決して只日本にのみ實在せるに非ずして、世界到る處に其の實例を見出し得べきである。併し日本には只比較的多く其の實例があるのである。抑も文化が進歩して今日の域に達したのは人に忠孝の性質ありて父子君臣が相愛相傳したるを主要の原因とすべきであらう。就中孝に由りて意志と事業が繼續發達

し又忠に由りて偉大なる建設事業が成就する。凡そ文化は作業の蓄積に基づき、作業の蓄積は忠孝に基づくのである。若も忠孝の美徳なかりしならば人類は野蠻狀態に止まつたであらう。

× × × ×

敎育勅語の要領は十ケ條であつて、悉く基督敎に應つて居る而して一も愛神愛人の敎に違ふ所がないのである。愛を實行する爲に寧ろ最善の方法と認むべきである。抑も愛を大別すれば二の種類があつて、一は孝愛、他は性愛である。忠愛は孝愛に基づき、兄弟愛も亦孝愛より發生する。忠愛と孝愛は縱線に位し性愛は橫線に位して居る。兄弟愛は其の中間約四十五度の線に在り。又聖人や偉人を愛するは兄弟線よりも縱線に近く而して朋友愛は兄弟線と橫線の間に

位せりと考ふべきであらう。父子間の孝愛は精神的に知識能力希望等を生殖永續せしむる者であるが、男女間の性愛は主に肉體を生殖永續せしめるの用を爲すに過ぎない。猥りに性愛を高調して、却つて孝愛を輕んずるのが近時の惡傾向である。之が爲に風俗の墮落惡化を招致して居る。之に反して孝愛を高調して性愛を低調に止むるのが基督敎の本態である。敎育勅語の本態も亦孝愛である事は『一旦緩急あれば義勇公に奉じ以て天壤無窮の皇運を扶翼すべし』の一句に於ても理解することができる。又勅語十ヶ條の聖訓を約むれば孝の一事に歸着するのである。實に孝は百行の本、萬善の本、人倫道德の本である。耶蘇基督は之を神の誡命なりと言はれた。勅語の終りに『咸な其の德を一にせんことを庶幾ふ』と仰せられたのは則ち吾人

が各孝行を怠らぬ様御勸めに成つたことも理解することができる。

× × × ×

孝心救世（昭和五年十一月）

（一）勅語渙發後　四十周年
イエス降誕后　一九三〇
第三十回　醫王祭にて
世を救ふ道ぞ　宣揚せらる
斯の道は實に　古今に通じ
普く世人を　活かす勢

（二）

帥ゐる君主も　事ふる民も
倶に拳々し　服膺すべき
勅語の要點は　孝行に在り
神の命の　敬親を守り
幸福を享けて　永く生きなん
天より賜ひし　美き地に於て

（三）

子女は父と母の　喜樂と成り
心意と生命の　延長と成る
然れば兩親は　愛情の他
理智に基きて　其の子女を育つ

知識經驗を　之に傳へて
更に優れたる　繼嗣を望む

(四)
育兒に勞苦を　惜まぬ親は
恰も農夫が　作物育て
牧者が家畜を　育つる如く
其の守護の神の　役を演せり
剎那の愛情　未來の期待
其の兒に集注　するにあらずや

(五)
神を信せざる　唯物主義よ

親に孝行の利益を悟れ
凡て不孝なる者は榮えず
祖先に不孝の國は衰ふ
其らの例證は眼前に在り
天則眞理は日の如光る

（六）

子を愛むは親の天性
父母慕ふは兒童の心
本能的なる其の性情を
假に除脱き思考よかし
親子相愛は幸福の根本

人文發達　　　　兹に湧き出づ

×　×　×　×

教育勅語の歌（昭和五年十月三十日）

（一）

皇祖主神は　　宇宙を造り
萬有を理め　　生命を賜ふ
皇國の肇　　宏くて遠し
神の御德は　　深くて厚し
國家を建つるに　　基礎を要す
帝國の基礎は　　宏くて深し

（二）

皇祖とは天の　實中主神

皇宗は太神　生靈の尊

神生靈尊　いざなぎ尊

天照太神　ににぎの尊

神武天皇や　應神仁德

今より仰げば　明治天皇

（三）

吾儕國民は　忠孝を以て

主神に事へ　此の世を救ふ

億兆の意　忠孝に在り

忠孝一心　代々を貫く

其の美さよ　何に比へん
朝日に匂へる　花に優りぬ

(四)

父母又祖先に　孝を行ひ
兄弟に對し　友悌の愛
夫婦の間に　禮和を保ち
朋友信義を　相守れかし
斯の四つの事を　行ふてこそ
平安と幸福との　有たるゝなれ

(五)

神を畏れつゝ　節約を爲し

勉め勵みつゝ　博愛を爲せ
學業を修め　知能を進め
公益事業を　隆昌ならしめ
憲法規律に　背くことなく
國難起らば　勇みて防げ

(六)

是らの敎訓は　不朽の眞理
天の父上の　御示なり
御訓の數は　十箇條なれど
之を約むれば　只一つのみ
主神に孝を　行ふ一事

孝行は實に　×　×　×　×　萬善の本

今より神武天皇と耶蘇基督の合一點を述ぶれば、兩者共に天皇卽ち基督で居らせられ、救世主で居らせられ、天下萬民を恐るべき惡むべき罪惡より救ふて正義と仁愛に由りて生活するを得しめたまふ御方である。萬物は陰陽兩性の電子卽ちエレクトロンとプロトンより構成せられある如く、萬民を救ふ基督も政治と宗教の兩方面の勢力より成り、就中政治方面は神武であり宗教方面は耶蘇である。神武及其の皇室は天の父上の正義を遂行し、又耶蘇及其の弟子は神の仁愛を遂行して救世の職分を完うするのである。抑もイエスとはヘブル語のイエシユア又エホシユア又ヨシユアと同語であつて『ヤー

ヱーは救である』てふ意義であるがマタイ傳福音書第一章二十一に據れば『彼は國民を罪より救ふ』からイエスと名づけたのである。則ち耶蘇は民衆を罪惡より救ふ救主であつて宗教上の基督である。人類を善に化し且つ安心せしむるには宗教上の權威を要する如く、善人義人を守りて平和幸福ならしむるには政治上の基督を要する。古來耶蘇が救世主基督である事は廣く認められてあるが、神武天皇及其の皇室が政治的救世主なる事に就いては未だ世間に知れ渡つて居ない。故に之を宣傳する必要が大である。其の宣傳は餘り困難でない、蓋し聖書と歴史が之を證明して居るからである聖書は廣く世界の人々の心中に恰も車の軌道の如く布かれてあるから、其の上を通りて普く全世界に政治上の基督が宣傳せられ得るのである。

扨て聖書中の大預言者なるイエサヤが神武天皇及其の皇室及皇國の任務並に帝國と世界の運命に就いて、其の第九章一乃至六節並に第十一章一乃至九節に於て預言して居る。抑もイエサヤは紀元前七百四十年乃至七百〇一年ユダヤの首都イエルサレムに於て、神ヤーヱー即ち天の父上の御啓示即ちインスピレーションを受け、幻想即ちヴイジオンを感じて神の御意志と御計畫を言ひ顯はしたのである。彼の傳へし所は今日に至るまで神の言と信ぜられて居る。彼の名イエサヤの意義は『ヤーヱーの救』である。又ヤーヱーとは『我で有る』又は『常に在るところの者』の義である。此のヤーヱーの御名はシナイ山に於てモーゼの間に對してアブラハムの神なるエルシヤダイ(全能神)が自ら示したまひし所である。故にイエサヤとは『神の救』

又は『天佑』といふことになる。イエサヤの預言は明かに日本帝國に對し及全世界に對して天佑である。イエサヤは敬神愛國の念の極めて深い人であつたが、其の預言の必要に迫られた原因の主要なる者は第一ユダヤ人の道德的頽廢であり、第二諸外國殊にアッスリヤ帝國の脅威であつた。其の頃ユダヤ國では神殿に祭典を行ひ供物を獻ずる等の宗敎形式は可なり盛んであつたが、道德的生活を實行する者が少なく、奢侈に流れ、賄賂が行はれ、貧者、弱者、寡婦等の爲に正き審判を下されざる情況であつた。故にイエサヤは神の正義にして、仁慈に居らせらるゝを說き、神に事ふるには德行を最も必要とする旨を說いた。

×

×

×

×

又當時のユダヤと外國との關係を略述すれば、東方にアッスリヤ帝國あり、西方にエジプト帝國あり、北方に北朝なるイスラエル王國あり、又其の北にアラム即ちスリヤ王國あり、南方にはペリシテ、エドム、モアブの諸王國あり。紀元前七百三十五年にはスリヤとイスラエルの二國連合してユダヤを攻め、ユダヤ王アハズはアッスリヤに援を乞ひしに由り、アッスリヤはアラムを攻めて之を滅ぼし、而して其の餘勢はイスラエル、ユダヤ及ペリシテをアッスリヤの屬國と成して了つた。同二十五年ユダヤ王ヒスキヤはペリシテと戰ひ勝つた。又同年イスラエル王はアッスリヤに叛き之が爲に三年間攻圍せられて、同二十二年遂にアッスリヤの滅ぼす所と成つた。又同七百〇五年ヒスキヤ王はイエサヤの諫を聽き入れずしてエジプ

トと結びアッスリヤに叛いた。同四年アッスリヤ帝サンヘリブはバビロンと戰ひ克ちたる後、同一年エジプトに向つて進軍し、ユダヤの諸都市を攻め陷した。ヒスキヤ王は莫大の償金を拂つて媾和せざるを得なかつた。其の際曾てソロモン王の建てた神殿を飾りありし黃金を盡く剝ぎ取り、辛うじて償金を調へ得たのであつた。其の後間もなくイエルサレムは再びアッスリヤ軍の圍む所と成つたが、奇跡的に敵は退却して其の難を免れたのであつた。多分アッスリヤ軍がエジプト軍との劇戰の爲に多數の死傷者を出したると疫病の發したるに原因したのであらう。イエルサレムを包圍せし敵軍の俄に退却したるを見てイエルサレムの住民は非常に喜び飮んだり食つたりして大祝した。併しイエサヤはユダヤ人に愛想を盡かし『不心得者

らが皆死ぬる迄は神の御赦が無いであらう』と其の第二十二章に豫言して居る。

×　×　×　×

略ぼ其の頃に記されたイエサヤの豫言が第九章一乃至六と第十一章の一乃至九等である。就中第九章は暗黑に苦惱せる國民に光明が照り出でて自由と平和の大なる歡喜に接すべき事と、正義を事とする理想的の皇と皇國が勃興して永遠に達すべき事、就中其の皇の名は神武であつて、政治的基督なるダビデ王の後繼者たる事等を言明し、又第十一章は聖靈に滿ちたる理想的の王がダビデ王國の倒された後に勃興して萬民に完全なる平安を得せしむべき事を說いたのである。右は何れも豫言者の他の部分と異ふて、同書の前後との關連

もなければ又ユダヤの歴史と合致する所も無いから、少なからず疑惑せられて居たのであるが、之を日本の歴史に照らす事に由りて初めて明確なる解釋が可能と成つたのである。

× × × ×

・抑も人は萬物の靈長であつて宇宙間に最も尊貴なる者であるが、其の人間よりも尊い者がある。夫は勿論天の父上で在ますが、夫は論外として、人間よりも尊貴なる者は國家である。國家は個人の集合體であるから、個々の人間よりも尊いのである。故に古來人間は國家の爲に犧牲と成るを當然の義務本分と心得て居る。我が邦王政維新以前には六十有餘の大名が各〻其の國を支配し而して其の武士は皆其の君國を中心としての生活を爲した。然るに明治の初年以來

政權は皇室に復歸し、全國が皇室を中心として統一せられ、從つて平和と幸福と文化は長足の進步を爲して、世界の一等國と成り、又海軍力に於ては英米に次ぐ第三位を占むる事と成つたのである。是れ同心協力に由りて能力と幸福の增進する事の著き實例である。然れば現今地球の表面に分立せる六十有餘の國家が、若し基督に由りて統一せらるゝならば、世界全人類の平和、幸福、文化の增進する事の甚だ顯著なるべきは毫も疑ふの餘地がないのである。近年交通機關は陸上、海上、空中共に非常に發達したるが故に、萬國恰も比隣の如く又或點に於ては一家庭の如く成つた。斯る情況であるから政權の統一の必要が迫つて來た。國際的統一的規約は段々增加して、國際公法、赤十字條約、世界郵便同盟、不戰條約、國際聯盟等

あり、其の他諸種の國際的會合が頻りに開催せられつゝある。故に正義を事とする基督が全世界の平安を確保するの時期は決して遠くなからうと信ぜられる。此の時代に生活せる日本人は正義と平和を擁護する使命を自覺し、神國の實現の爲に盡瘁する事、彼の明治維新當時の志士に劣らぬ様、大に奮勵努力せねばならぬ。

× × × ×

此の世界的大運動の第一歩として吾人は我が同胞より迷信と不信を驅除し之を聖別せねばならぬ。聖別せられたる人は至誠眞實の心を以て神聖全能なる神を畏れ又常に感恩しつゝ極めて忠義に神に奉仕すべきである。抑も人は天の父上に順孝なるを以て其本分とする又人を愛するは之を神の孝子と成らしむるに如くはない。故に先づ

其の生來の盲者たる不信仰者又は唯物思想者の眼を開いて、最も有り難い天の父上を拜せしめねばならぬ。又獨一の神であり主である天の父上に不敬罪を犯しつゝある迷信者の偶像崇拜を制止し之を悔改めしめ而して衷誠を以て神靈と交通し得せしめねばならぬ。日本人は本來至誠敬神を最も尊重し隨神の道を辿りて今日に至つたのである。然れば今一段の進步を爲し、明治天皇が明治元年三月十四日に詔告したまひし御誓文の第四項なる『舊來の陋習を破り天地の公道に基くべし』又其の第五項なる『智識を世界に求め大に皇基を振起すべし』との御趣旨に從ひて今日の日本人は迷信と不信を一掃して皆天の父上に忠孝なる奉仕を勵み又神の言なる聖書に基いて大に皇基を振起すべきである。

昭和十二年十二月二十日印刷
昭和十二年十二月二十五日發行

定價參拾錢

著述兼發行者　東京市麴町區九段四丁目十五番地
高田畊安

印刷者　東京市本郷區駒込林町百七十二番地
柴山則常

發行所　神奈川縣高座郡茅ヶ崎字南湖
南湖院

發賣所　東京市京橋區銀座西八丁目九番地
警醒社
電話銀座千五百八十七番
振替東京　五百五十三番